



南陽市
やまもり みずもり

山守・水守が守った二つのため池

なんようし こたき しらたかやま おおつかやま
おおつつみ しんべえつつみ
南陽市小滝の白鷹山と大鷹山の中間に位置に、大堤と新兵衛堤とい
うため池があります。南陽市を流れる吉野川の最上流となっているため
池で、下流には日本の滝100選にも選ばれた「くぐり滝」がある自然ゆた
かなところです。

ほじょうごう げんなんようし
昔の北条郷(現南陽市から高畠町周辺)を治めていた米沢藩は、田ん
ぼを広げるため、水は大切なものとして考え、水を守るため山の中の木
を切らずに、大切に守ることとしたのです。その一つの場所として吉野
がわ なんようしこたき みずばやし
川上流の南陽市小滝にある水林地区を選び、1656年(明暦2年)山林
めいれき
332ヘクタールを禁伐林(木を切ってはいけないところ)としたのです。
よねざわはん きんぱつりん
米沢藩では、禁伐林の見張り役である「山守」として、小滝集落から4
うつ
人を移り住ませました。これが水林集落のはじまりで、名前のとおり水を
守るために守ることから集落の名がついたのでしょうか。



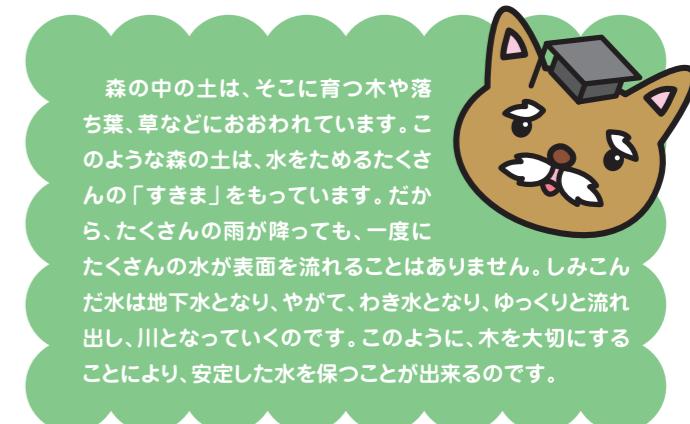
なんようしあきごう みやうち
この後、現在の南陽市沖郷・宮内・
あかゆ
赤湯地区の田んぼに水を引くため、
なべたむら けんなんようしなべた
鍋田村(現南陽市鍋田)に住む
とだしんべえ ただもり
戸田新兵衛忠盛が自分のお金で、
しんべえつつみ
1710年(宝永6年)に新兵衛堤
をつくりましたがまだ水の量が少
ないと、1717年(享保2年)各村が協力して大堤という、二つのため池が

みは みずもり
つくられたのでした。そして、ため池の見張り役である「水守」として、新
たに3人を住ませたのでした。

やまもり みずもり みょうじ たいとう ふし みょうじ
當時、「山守」「水守」には、苗字帯刀(昔は、武士には苗字をなのること
ゆる いっぽん みょうじ
とが許されておりましたが、一般の人たちは苗字をなのることは許され
ておりませんでした。しかし、特別に許可された人だけは、武士と同じよう
みょうじ ふし
に、苗字をなのり、刀を持つことが許されていたのです。)を許され、二
ふち ぶし
人分の扶持(給料としてのお米)をもらっていたことから、その役目は相
当重要なものであったと思われます。

なんようしおきごう やまもり みず
とくに関係が深かった南陽市沖郷地区では、毎年中学生たちが山守・水
もり かんしゃ
守の苦労に感謝するとともに、自分たちの田んぼにかかる水を調べるた
め昭和36年ころまで、水林集落を一泊しながらおとずれていたそうです。

よしのがわとちかいりょうく
月日が流れ、若い人たちは村を離れ、お年寄りだけの村となり、長い間「山
もり みずもり
守」「水守」の役目を果たしてきた水林集落は、昭和53年に閉村となっ
たのでした。しかし、二つのため池は今も吉野川土地改良区が管理し、
周辺の山林は「国有林」として今
大切に守られています。



【参考文献 南陽市史…南陽市】